

2026年度日系社会研修 コース概要

No	9
所管センター	中国
分野	教育
研修コース名	日系コミュニティを中心とした「地域づくり」に繋がる日本語教育実践
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2026年5月13日（水）
帰国日	2026年6月27日（土）
提案団体	（公財）ひろしま国際センター 研修部
提案団体ウェブサイトアドレス	https://hiroshima-hip.or.jp/
研修員必要資格	【必要資格】 - 日本語能力試験 N2相当以上の日本語能力（研修はすべて日本語で行われる） - 日本語専任教員として実働3～5年程度であること 【望ましい条件】 - 年齢30～50歳が望ましい
研修員に必要な実務経験年数	実務経験3年以上
研修使用言語	日本語
日本語能力（JLPT目安）	N2
英語能力	不問
研修目標	① 実践的運用練習を通し、日本語の運用力向上を図ると共に、談話展開を自らの授業にどのように応用できるかを検討する ② 上記の日本語運用過程の振り返り等により、自らの日本語能力について客観的に認識し、学習課題を知る ③ 「外国語教育」としての日本語教育について、実践的シミュレーションを通し、自らの授業実践を省察すると共に、日本語教授能力の向上を図る機会とする ④ 上記の過程を通し、日本語教材等、様々な日本語教育リソースに触れる機会とする ⑤ 日本文化・事情、学校・地域日本語教室の視察等の体験を通し、日本および日本人に関する理解を深めると共に、言語・文化を学習する意義について考察する機会とする
期待される成果（習得する技術）	- 日本語能力の向上（とりわけメタ言語表現を中心とした言語運用能力） 「外国語教育」としての日本語教育能力の向上（省察的実践等を通じた自己成長能力の向上） - 現地で日本語教育に資する日本文化・事情等に関する知見の獲得 - これからの「日本語教育」について探求する姿勢の涵養
研修計画（内容）	【日本語能力診断】 - 日本語能力判定試験 【日本語運用能力】 - プロジェクトワーク - 導入 → 事前準備 → プロジェクトワーク（インタビュー活動等） → 結果発表（先行タスク）→ フィードバック → 後行タスク 【日本文化・事情等】 - 現代日本文化・事情（視察やプロジェクトワーク等を通して実施） - 多様な日本語学習について知る（学校訪問（国語教育・国際教室・夜間中学校等）、地域日本語教室訪問等を通して実施） 【日本語教授法】 - 模擬授業の実施 - 導入 → 課題抽出 → 授業準備 → 模擬授業1（先行タスク） → フィードバック → 模擬授業2（後行タスク）→ フィードバック → まとめ（ディスカッション）
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	- 教師自身が自らの日本語能力を客観的に把握しようとすることで、日本語能力向上の機会となり、日本語指導の向上につながると考えられる。 「外国語教育」としての「日本語教育」の方法について考えることにより、日本語教育の質の維持・向上につながると考えられる。 - 当該国における「日本語教育」の現代的意義を考えることにより、継承語教育の枠を超え学習者の確保ができると共に、当該国の「ひとづくり」「地域づくり」に貢献することによる日系社会のプレゼンス向上につながると考えられる。
応募希望者への特記事項	